

## 【学生による ESD 学習支援活動】

### 奈良市富雄第三小中学校 ユネスコ委員会 ビオトープ調査 支援報告書

家庭科教育専修 1 回生 福井 彩乃

1. 日時 平成 30 年 8 月 23 日 (木) 9 : 00 ~ 14 : 00
2. 場所 奈良市富雄第三小中学校 校内ビオトープ
3. 参加者 仲村幸奈、足立繁郁、福井彩乃 (学部生)  
環境カウンセラー 室賀泰二氏  
奈良市富雄第三小中学校 小学部児童 10 名、中学部生徒 1 名、教員 2 名

#### 4. 内容

- (1) 校内ビオトープの水を抜く
- (2) ビオトープに住む生き物を水槽に移す
- (3) ビオトープにたまっているヘドロを取る
- (4) ビオトープに住んでいる生き物の観察と振り返り

#### 5. 活動支援報告

平成 30 年 8 月 23 日に、奈良市富雄第三小中学校でユネスコ委員会が行われた。今回の活動では、奈良市富雄第三小中学校のビオトープの環境をよくするため、水を抜く作業、網やざるで生き物をつかまえる作業を行った。

今回の活動について以下の 2 点を報告したい。一つ目はビオトープに関する知識について、二つ目は今後の活動の必要性についてである。

一つ目のビオトープに関する知識についてである。今回の活動ではビオトープの水を抜くことにより、そこに住む生き物を知り、どのような環境が生き物の住みやすい環境であるかを学ぶことができた。大変な作業ではあったが、児童生徒はまじめに一生懸命取り組んでおり素晴らしいと感じた。

二つ目は、今後の活動の必要性についてである。自然に任せるだけでは底にヘドロがたまり、ビオトープの環境が悪くなってしまうため、ある程度人が手を加えていかなければならないことが分かった。



生き物を探す様子



バケツリレーをする様子

そのため、今回行ったような活動は一回きりではなく定期的に行う必要があると感じた。

今回の活動で掃除をすることにより、ビオトープがより良い環境になったことを嬉しく感じた。自然環境というと、「手つかずの自然」がよいという印象を持ちがちだが、人の手が加わることで、豊かになる自然環境もあるということがわかり、人と自然の共生について考える機会となった。そのようなことを伝えるためにも、本支援に継続的に関わっていききたい。